

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800507		
法人名	社会福祉法人 三桂会		
事業所名	グループホームまんでんたるみ東		
所在地	神戸市垂水区美山台二丁目8番2号		
自己評価作成日	令和元年11月2日	評価結果市町村受理日	令和2年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2		
訪問調査日	令和元年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は2階からは明石海峡大橋が見える、閑静な住宅街に位置しています。徒歩10分圏内に、小さな公園や地域福祉センター、小学校や中学校がある立地を活かし、地域との関わりを少しずつですが増やしています。ほぼ毎月行われています地域福祉センターでのふれあいサロンへの出席や、小学校での催し物(凧揚げ大会や夏祭り等)にも参加させて頂いています。

また、毎年トライやるウィークの受け入れを行い、地域貢献に取り組んでいます。不定期ですが、喫茶外出や買い物にも出かけたり、近所を散歩したりと外出支援にも力を入れています。この3年ほどは淡路島に、参加可能な家族様と一緒に日帰り旅行を実施し好評を博しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあり、明石海峡大橋など景観も楽しめる。自治会に加入して、地域のふれあいサロンに参加し、夏祭や凧揚げ大会、トライやるウィークの中学生を受入れるなど、大人も子供も含め地域との付き合いが深まりつつある。運営推進会議は全家族に案内と議事録を送り複数の家族が出席している。家族からの意見・要望にきちんと対応しており、そこから家族参加の日帰りバス旅行や口腔ケアの充実などが生まれている。おやつ作りや外食など食を楽しみ、味わう行事もある。そのような日頃の様子を沢山の写真とコメントで伝える「まんでんの青空通信」を毎月家族に送っている。

職員は担当入居者に限らずユニット全員の思いや意向の把握に努めている。誕生日には希望に沿って昔馴染みの菓子店に家族と職員も一緒に訪れたり、故郷の景色に似た海辺にお連れして喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホームまんでんたるみ東

評価機関:CS神戸

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で作ったキャッチコピー「笑顔・安心・たるみ東」をもとに日々の業務にあたっています。	入居者と一緒に作り休憩室に掲示している「気が付けばここに笑顔がある～そんな安心できる場所をめざします。自分らしさをいつまでも…まんでんらしさをいつまでも」を短くした「笑顔・安心・たるみ東」をキャッチコピーとして共有し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校での催しには積極的に参加しています。	自治会に加入し、昨年から婦人会が地域福祉センターで月一回開催する「ふれあいサロン」に通っている。小学校での凧揚げ大会や夏祭に参加し、事業所の夏祭には地域の子供達も立寄る。トライやるウィークでは中学生4人を数日間受け入れた。	地域とのお付き合いが進んでいるのは嬉しいです。今後は事業所のイベントや行事に地域住民を招待するなどして、双方向の交流を深めていかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、トライやるウィークの受け入れを行っています。今年度は3名の中学生の受け入れを行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議を開催しています。ご家族、地域包括支援センター職員、自治会のブロック長、ご家族等に毎回参加頂き、ご意見を頂戴しています。	住民代表は自治会ブロック長に、知見を有する者は2か所の事業所に出席依頼をするなどして、運営推進会議に出席が必要なメンバーは全て確保している。全家族に出席の案内と議事録を送っており、複数の家族が出席して忌憚なく意見や要望を述べている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、地域包括支援センターとコンタクトを取って情報交換や共有を行っています。	徒歩10分位の距離にある東垂水あんしんすこやかセンターとは運営推進会議以外にも行き来しており、日常的に情報交換や連携を行っている。生活保護受給者を受入れていることから区役所の生活支援課とも定期的やりとりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1度開催し現状の確認を行うと共に、年に2回身体拘束についての研修を行っています。	身体拘束しないケアに取り組み、研修を年2回行う。センサーマットは歩行が不安定な方などにやむを得ず使用することがあるが、毎月検討し不要になれば撤去している。玄関とユニット入口は施錠しているが、外出を希望する入居者には職員が付き添って出ている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、虐待防止研修を行っています。また新入職社員については、入社時に研修を行っています。	職員の不適切なケアや言葉遣いを見かけた時はその都度注意やアドバイスを行なっている。年2回の虐待防止研修は事例検討を通じて防止方法を学ぶ。個人面談などで職員のメンタルな健康にも気をつけており、ストレスチェックも今後導入する予定である。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あんしんすこやかセンター、司法書士と連携し、家族様参加の権利擁護研修を開催しました。質疑応答の時間も設け不安や疑問の解消につなげました。	成年後見制度の保佐人が付いている入居者が複数居るほか、こうべ安心サポートセンターの利用者もいる。昨年は家族の相談を契機として成年後見と家族信託等に関する研修を開催し家族と職員が参加した。資料は相談があるごとに準備をしている。	権利擁護に関する制度へのニーズは増々高まると予想されます。今後も制度の研修と資料整備を続けて職員の理解を深め、家族や住民の相談に備えることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、約3時間ほどかけて、丁寧に内容の確認を行っています。抽象的な表現には具体的な事例をあげて理解、納得を頂いています。	契約書や重要事項説明書は条文を逐一読み上げ、具体例で補足するなど、十分な時間をかけて説明し理解を得るようにしている。入居後のトラブル回避も考え、事業所の出来ることと出来ないこと、退去条件などのルールも理解してもらえるよう努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で家族様からのヒアリングや、来訪時やケアプラン更新時を利用し本人様や家族様に意見を頂戴しています。また、独自のアンケートを年に1度実施し運営に反映させています。	家族の意見・要望は運営推進会議だけでなく、来訪時も聞くようにしている。淡路島への日帰りバス旅行も家族の要望から実現した。また歯磨きにこだわっていたので毎日ケアをお願いしたいというある家族の要望が事業所全体での口腔ケアの取組みにつながった。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おおよそ月に1度の個別面談や全体MTGの場でのヒアリングや、必要に応じて適時、個別面談も行っています。	職員からは個別面談や全体ミーティング等で意見がよく出される。職員の意見や要望に基づいて、最近では例えば外出プランに併せたシフトの調整を行ったり、フロア環境向上チームによる不要物撤去や書類の書式改良などを行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に3日間の希望休の取得を勧めています。また年に1度有休を活用しながら4～5連休の取得も勧めています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部問わず研修参加、開催をしています。必須研修以外は研修部会が検討した内容の研修を行っています。外部から講師を招いて開催しているオムツ研修もあります。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区のGH連絡会、リーダー会、ケアマネ連絡会に出席し情報共有を行い、良い事例を持ち帰っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が不安になられている時は傾聴する等、安心していただける様行動しています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には来訪時、利用者様の普段の様子を報告し、またサービスについて希望等が無いとお伺いしています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの実施状況を毎日確認すると共に、支援が必要であれば話し合いの場を設け提案をしています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士の関係性、職員と利用者様の関係性が構築できるようにコミュニケーションをとっています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が来訪された際は、居室で家族だけの時間が過せるように配慮しています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔なじみや友達がホームに遊びに来られることもあります。	親族や知人の訪問は、くつろいでいただけるよう居室に椅子やテーブルを準備している。担当職員が誕生日祝いに昔馴染みの店や場所へ一緒に行くこともある。最近も昔馴染みの菓子店や故郷に景色が似ているという場所に入居者をお連れして喜ばれた。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のその日の気分や体調を考慮し、利用者同士の関わりが持てるように支援しています。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了=ご逝去のケースがほとんどである為、ご本人への継続したフォローは出来ていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を中心に利用者様のニーズを引き出そうと日頃から関わりを持っていきます。	入居前の暮らしぶりは基本情報に詳しく記録されており、職員間で共有している。意思疎通が困難な方は日々の行動や表情などから判断し把握に努めている。職員は2~3名の入居者を担当し、フロア全員の思いも掴むようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からのヒアリングや、来訪時に家族様へ聞くなどして情報収集に努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの実施状況を毎日確認し、現状把握に努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議開催前に本人様や家族様へのヒアリングを行い、利用者様の普段の様子を踏まえたうえで、職員で話し合い作成しています。	介護計画の定期的な見直しは6か月ごとに行っているが、身体状態の変化や本人・家族の要望などに合わせ随時カンファレンスを開き、関係者全員と話し合っって柔軟に対応している。家族の来訪時に作成書類にサインをもらうか郵送している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌、申し送りなどを活用し、情報共有を行っています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベースとなるサービスをもとに、状況に応じたサービスを柔軟に提供しています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある店舗への買い物や、ふれあいサロンへの参加を通じて楽しみを提供しています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診時に細やかな連携のもと適切な医療を受けていただいています。必要に応じて家族様を招いて主治医と話す場の提供も行っています。	入居以前のかかりつけ医から病状や既往歴等を引き継ぎ、協力医院の月2回の往診を主として適切な医療を受けている。歯科訪問では希望により月4回口腔ケアを行っている。入院が必要な場合は後方支援病院とも連携して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問、もしくは24時間オンコール体制の訪問看護師に介護職では判断しにくいケースについて相談しています。また必要に応じて主治医と連携をしています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も定期的に、MSWと情報共有しています。退院時も事前に訪問し退院カンファレンスを開催し情報収集に当たっています。また後方支援病院へは3ヶ月に1度、本人様の医療情報の共有を行っています。	入院時にはかかりつけ医からの医療・服薬情報と日常生活の様子などの資料を提供し、定期的にお見舞いに行っている。退院時には医師、看護師、相談員を交えカンファレンスを行い、本人・家族の要望に応えるように努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当事業所の方針を説明すると共に、延命処置の希望も聞いています。	契約時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明し同意書を交わしている。状況変化に応じ、再度意思確認して家族、かかりつけ医、職員などでカンファレンスを行い、ターミナルケアを実践できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応マニュアルを各フロアに設置すると共に研修も行っています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災避難訓練(昼間、夜間)を行っています。また水害、土砂災害対応マニュアルを作成しています。	5月に地震についての研修と火災避難訓練を行った。11月には夜間の火災を想定した訓練をする予定である。避難場所は近くの乙木小学校になっており、日ごろから散歩コースにしている。備蓄品は食品が前日に配達されるので用意していない。	最近では想定外の風水害や停電などが発生しています。水や食料、紙おむつ、医薬品など3日分ぐらいの備蓄は必要かと思われます。また地域の人を交えての火災避難訓練を消防署に依頼してみたいかがでしょうか。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語や丁寧語を使い、状況に応じた声の大きさやトーンで話す事を心がけています。	年1回の接遇研修に加え今年はユマニチュード研修を行い、一人ひとりの人間としての尊厳を大切に介護に取り組んでいる。DVDを見ながら不適切な言葉かけや振る舞いがいかなど職員間でも注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えがあれば傾聴し出来る事は対応しています。日頃の会話からもニーズ等を聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様子を伺いながら、食事や入浴、外出等のサービスを提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に着る服を選んでいただいています。外出時も季節に応じた服を着ていただいています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備や片づけをして頂いています。またお箸が持ちにくい方にはスプーンなど食事のしやすいもので対応しています。	前日に食材が届き、各フロアの好みの味付けに調理している。できる方は配膳や後片付けを職員と一緒にしている。お誕生日には本人の希望で家族と外食したりケーキを食べに出かけたりしている。おやつ作りではお月見団子を丸めてお汁粉にして楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病歴や体重等を考慮したうえで医師のアドバイスのもと食事や水分量を調整していません。食事は管理栄養士指導の物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	少なくとも朝と夕食後には口腔ケアをしています。また月に4回訪問歯科医による口腔ケアと月に1度、助言や指導を頂いています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを掴み、適時トイレの声かけを行っています。	一人ひとりの「排泄・水分摂取チェック表」を確認し時間を見計らってトイレでの排泄を行うようにしている。昼間は布パンツにして、夜間のみ紙おむつやパッドを使用しているが、カンファレンスを行い、サイズや種類を検討し、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分摂取量を把握しています。また必要に応じて運動等も取り入れています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと時間をかけて対応しています。中には毎日入浴を希望されて対応している入居者様もいます。	週に2回の入浴を決めているが、本人の体調や気分などに合わせ、柔軟に声かけをして対応している。入浴好きの方にも希望に添えるようにしている。冬至には近所の方から自宅の柚子をたくさん届けてもらい、ゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床時間は入居者様によって異なります。照明や室温の調整も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず2人での確認を行っています。また服薬後口の中をチェックすることも心がけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレクリエーション、外出支援など一人ひとりにあったサービスの提供を行っています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や喫茶外出、社用車以外にもバスやタクシーを使っての外出支援を行っています。	近くに公園や小学校があり、散歩に出かけている。お誕生日には希望を聞いて行きたいところや自宅に寄ったり、家族や職員と一緒に外食したりしている。年1回家族同伴の淡路島バス旅行があり、ホテルでの食事も楽しみの行事となっている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、ご自身のお財布で買い物をして頂いています。また家族様の意向で財布の無い方でも、施設の立替での買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もおり、ご自身で家族様に連絡しています。また、年賀状に一筆書き添えていただき家族様へ送ったりもしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒事故などが発生しないよう環境を整えつつ、エアコンの温度管理、時間帯によって照明のON/OFF調整、壁面飾りによる季節感等の対応を行っています。	リビングには季節を感じる葡萄と木の葉などの飾りや手作りの布製のカレンダーもあり温かい雰囲気の中で、テーブルに座って歓談している。温度は入居者に聞きながら調節している。フロアやトイレの掃除も行き届き、居心地よく過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性を考慮したうえで座席に案内しています。特に指定の座席は無く、好きな席に座って頂くよう声かけをしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅にあるものの持込を勧めています。タンスや時計、お仏壇を持って入居されている方もいます。	一部屋ずつ入口のネームプレートに写真や飾りつけをしている。使い慣れたタンスや椅子などがあり、家族写真や好きな人形などが飾られている。お仏壇のある部屋もあり、本人のこれまでの生活を感じ続けられる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし生活が出来るように、横開きの扉や洗面台、その方のADLに応じて手すりや浴槽が稼動する浴槽も用意しています。		